

タイトル「2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理学研究科」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー					
科目名	企業リスクマネジメント特講				
担当教員	岡田 太				
対象学年	2年	開講学期	前期		
曜日・時限	時間外				
講義室		単位区分	選		
授業形態	講義	単位数	2		
科目大分類	—				
科目中分類	修士				
科目小分類	講義・発展				
科目の位置付け (開発能力)	DP1 [意欲・経験・適性] 災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察 (30%) DP2 [学識・専門技能] 災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための, 法学, 政治学, 国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能 (40%) DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力 (30%)				
教員の実務経験	なし。				
成績ターゲット区分					
科目概要・キーワード	企業リスクを, 企業全体の観点から統合的, 包括的かつ戦略的に把握, 評価し, 企業価値の最大化につなげようとする, 危機管理アプローチとして, ERM (Enterprise Risk Management) があります。本講では, 本アプローチを中心に, 市場, 金利, 取引先関係, 自然災害, 訴訟, 業務上のミスや不正等, 内外の実際のリスク事例を取り上げ, 研究文献を紐解いたり, ケーススタディを行ったりしながら, 経営者を含む企業の組織的なリスク管理のあり方を検討します。これらの研究プロセスを通じて, 学識・専門技能に加え, 判断力・思考力・表現力等の汎用的能力を開発することを目的とします。  ■キーワード: ERM, リスクマネジメントシステム, COSO-ERM				
授業の趣旨	■副題 ERMの多様性と総合的理解 ■授業の目的 多様なアプローチからERMを学習し, 企業リスクマネジメントに関する諸問題について論理的・実践的に分析し, 対処する力を養成します。 ■授業のポイント 現代企業は個別のリスクに対して対処するだけでなく, 多様なリスクを統合的, 包括的かつ戦略的に管理することが求められています。このように, 全社的なレベルで行うリスクマネジメントのことをERM (Enterprise Risk Management) といいます。ERMには経済学 (ファイナンス), 経営学, 会計学, 法学など多様なアプローチが存在します。これらをバランスよく学ぶことで総合的な理解を深めていきます。その際, 市場, 金利, 取引先関係, 自然災害, 訴訟, 業務上のミスや不正等, 内外の実際のリスク事例を取り上げ, 研究文献を紐解いたり, ケーススタディを行ったりすることで, 論理的・実践的な思考力や分析力を高めていきます。一方的な講義ではなく, 受講者の発表や意見交換を多用する双方向形式の授業を展開します。				
総合到達目標	■現代企業がERMを導入する背景等を理解し, その多様なアプローチを理解するために必要な基本的知識を習得し, 経営者を含む企業の組織的なリスク管理のあり方について自分なりの視点から論ずることができる。 ・リスクマネジメントの基礎概念を説明できる (第2~第4回) ・標準的なリスクマネジメント・システムの特徴や仕組みを説明できる (第5・第6回) ・COSO-ERMの背景や枠組みの特徴を説明できる (第7~第10回) ・企業統治をはじめとするERMに関連する項目を説明できる (第11, 第12回) ・一般事業会社と金融機関のERMについて比較することができる (第11~第13回) ・ERMに関してテーマを設定して発表することができ (第11~第14回)				
成績評価方法	■最終課題レポート・プレゼン: 1回 (発表25%, レポート25%) (評価の観点) 応用発展として, みずからテーマを設定し, 調査・研究を行った課題について着眼点や論理性などから評価します。 適用ルーブリック: C1 (10%), E1 (30%), F1 (15%), G1 (15%), H1 (20%), I3 (10%) (フィードバックの方法) 授業中に解説します。 ■第1回~第3回課題レポート (授業内容をふりかえる基礎的なレポート): 3回 (30%) (評価の観点) 設問に対して, 的確かつ論理的に答えているかどうかを評価します。 ■授業参加: 発言や説明など (20%) (評価の観点) 授業時のコメントや質疑など積極的に参加しているかどうかを評価します。 適用ルーブリック: C1 (10%), E1 (30%), F1 (15%), G1 (15%), H1 (20%), I3 (10%) (フィードバックの方法) 授業中に解説するほか, グループで意見交換を行います。				
履修条件	特になし。				
履修上の注意点	特になし。				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>①授業テーマ ガイダンス (全体テーマおよび進め方の説明) ②授業概要 授業のテーマや内容, スケジュール, 成績評価方法, ERMの学習方法や研究方法について解説し, 受講生が授業の準備を具体的にできるようにします。また問題意識を醸成するために, 企業リスクマネジメントがどのように発展してきたのか, 現在の</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス (全体テーマおよび進め方の説明) ②授業概要 授業のテーマや内容, スケジュール, 成績評価方法, ERMの学習方法や研究方法について解説し, 受講生が授業の準備を具体的にできるようにします。また問題意識を醸成するために, 企業リスクマネジメントがどのように発展してきたのか, 現在の
回	内容				
1	①授業テーマ ガイダンス (全体テーマおよび進め方の説明) ②授業概要 授業のテーマや内容, スケジュール, 成績評価方法, ERMの学習方法や研究方法について解説し, 受講生が授業の準備を具体的にできるようにします。また問題意識を醸成するために, 企業リスクマネジメントがどのように発展してきたのか, 現在の				

	<p>ERMが導入された背景についても解説します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（100分） シラバスの確認と教科書『ERMは進化する—不確実性への挑戦』（中央経済社、2018年）「第1章 ERMの発展と強化の方向性」を精読する。</p> <p>④復習（120分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
2	<p>①授業テーマ 導入①：事例研究（オリエンタルランド社のリスクマネジメント）</p> <p>②授業概要 身近な企業の事例研究を通じて、受講者が企業リスクマネジメントの全体像を把握できることを目指します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（120分） 教科書やオリエンタルランド社の年次報告書などで学習する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
3	<p>①授業テーマ 導入②：リスクと不確実性をめぐる議論</p> <p>②授業概要 リスクと不確実性をめぐる議論を解説し、受講者がそれらについて説明できることを目指します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（120分） 教科書『ERMは進化する—不確実性への挑戦』（中央経済社、2018年）「第2章 不確実性へのアプローチとリスク化」を精読する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
4	<p>①授業テーマ 導入③：リスクを管理するとはどのようなことをいうのか</p> <p>②授業概要 リスク管理手法について学習するとともに戦略的視点から再検討します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>第1回課題レポートについて案内します。</p> <p>③予習（120分） 教科書『ERMは進化する—不確実性への挑戦』（中央経済社、2018年）「第3章 事例にみる不確実性のインパクト」「第4章 不確実性をマネージするためのERM」を精読する。</p> <p>④復習（180分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。また、課題レポートを作成する。</p>
5	<p>①授業テーマ リスクマネジメントシステム①</p> <p>②授業概要 リスクマネジメント・システムのグローバル・スタンダードを学びます（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>またレポート課題について講評を行います。</p> <p>③予習（100分） 教科書『ISO 31000:2018(JIS Q 31000:2019)リスクマネジメント 解説と適用ガイド』（日本規格協会、2019年）の「第1章ISO31000:2018改定の経緯」と「第2章ISO31000:2018の解説」を精読する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
6	<p>①授業テーマ リスクマネジメントシステム②</p> <p>②授業概要 前回に続きリスクマネジメント・システムの活用について学びます（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>第2回レポート課題を案内します。</p> <p>③予習（100分） 教科書『ISO 31000:2018(JIS Q 31000:2019)リスクマネジメント 解説と適用ガイド』（日本規格協会、2019年）の「第3章 ISOマネジメントシステムへのISO31000の適用」を精読する。</p> <p>④復習（180分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。課題レポートを作成すること。</p>
7	<p>①授業テーマ COSO-ERM①</p> <p>②授業概要 COSO内部統制フレームワークを基礎とするCOSO-ERMを解説します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>またレポート課題について講評を行います。</p> <p>③予習（120分） 『COSO全社的リスクマネジメント』（同文館、2018年）「エグゼクティブサマリー」「まえがき」「第1章」「第2章」を精読する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
8	<p>①授業テーマ COSO-ERM②</p> <p>②授業概要 COSO内部統制フレームワークを基礎とするCOSO-ERMを解説します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（120分） 『COSO全社的リスクマネジメント』（同文館、2018年）「第3章」「第4章」「第5章」を精読する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
9	<p>①授業テーマ COSO-ERM③</p>

	<p>②授業概要 COSO内部統制フレームワークを基礎とするCOSO-ERMを解説します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（120分） 『COSO全社リスクマネジメント』（同文館、2018年）「第6章」「第7章」を精読する。</p> <p>③復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
10	<p>①授業テーマ COSO-ERM④</p> <p>②授業概要 COSO内部統制フレームワークを基礎とするCOSO-ERMを解説します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>第3回レポート課題を案内します。</p> <p>③予習（120分） 『COSO全社リスクマネジメント』（同文館、2018年）「第8章」「第9章」「第10章」を精読する。</p> <p>③復習（180分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
11	<p>①授業テーマ ERM各論①</p> <p>②授業概要 ERMの各論として、企業統治、内部統制・監査について説明します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>第3回レポート課題の講評を行います。</p> <p>③予習（100分） 授業内で指定した参考文献・資料を精読する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
12	<p>①授業テーマ ERM各論②</p> <p>②授業概要 ERMの各論として、利害関係者、企業価値、ESG投資などについて説明します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（100分） 授業内で指定した参考文献・資料を精読する。</p> <p>④復習（100分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
13	<p>①授業テーマ ERM各論③</p> <p>②授業概要 ERMの各論として、一般事業会社と金融機関のERMについて紹介し、両者の特徴や異同について考察します（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>最終課題の案内を行います。</p> <p>③予習（120分） 授業内で指定した参考文献・資料を精読する。</p> <p>④復習（200分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。また、最終課題の準備をする。</p>
14	<p>①授業テーマ 事例研究の発表・意見交換</p> <p>②授業概要 受講生がそれぞれ設定した課題をまとめ発表し、質疑応答、意見交換を行います（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（160分） 発表に向けて資料収集と整理、プレゼンの準備を行う。</p> <p>④復習（300分） 発表と質疑応答、意見交換をふまえてレポートを作成する。</p>
15	<p>①授業テーマ まとめ</p> <p>②授業概要 授業全体の総括とERMの課題と展望についてまとめを行います（適用ルーブリック-C1（10%）、E1（30%）、F1（15%）、G1（15%）、H1（20%）、I3（10%））。</p> <p>③予習（60分） 講義ノート全体と教科書の該当部分（講義で取り上げた部分）を読みなおし、各回のテーマについてポイントをつかみ説明できるよう準備する。</p> <p>④復習（60分） 授業テーマの理解を深めるために、講義資料（ノート）を確認し、参考文献を精読する。</p>
関連科目	「危機管理法制1（企業・取引）（MRMGT0006）」
教科書	後藤茂之『ERMは進化する-不確実性への挑戦』（中央経済社、2018年）、野口和彦・リスクマネジメント規格活用検討会『ISO 31000:2018(JIS Q 31000:2019)リスクマネジメント 解説と適用ガイド』（日本規格協会、2019年）、日本内部監査協会ら監訳・日本内部統制研究学会COSO-ERM研究会訳『COSO全社リスクマネジメント』（同文館、2018年）
参考書・参考URL	
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に案内します。</p> <p>■オフィスアワー 授業終了後、それ以外についてはメールにて調整します。</p>
研究比率	

